

第 5 回（令和 8 年度第 1 回）宗像市道路網整備計画策定委員会
議事要旨

■日 時：令和 8 年 6 月 15 日（月）10 時 00 分～11 時 30 分

■場 所：宗像市役所 本館 3 階 304 会議室

■出席者：

会 長	九州工業大学大学院工学研究院 教授	吉武 哲信
副会長	九州大学大学院工学研究院 准教授	大枝 良直
委 員	九州産業大学建築都市工学部建築学科 教授	日高 圭一郎
	国土交通省九州地方整備局北九州国道事務所 所長	上田 晴気
	福岡県建築都市部都市計画課 課長	岡本 直樹（欠席）
	福岡県北九州県土整備事務所宗像支所 支所長	岸川 雄次
	九州旅客鉄道株式会社赤間駅 駅長	紺屋 良治
	一般社団法人観光創造 DMO むなかつた 事務局長	品川 恭徳
	西日本鉄道株式会社赤間自動車営業所 所長	脇川 俊彦
	市民代表	合島 明美（欠席）
	市民代表	伊賀 美穂
	市民代表	國廣 由佳
事務局	宗像市都市管理部施設整備課	楠 芳一、高山 正利、 熊 圭二郎、大坪 歩生、 平田 拓也

1. 開会

2. 議事録署名委員の決定

事 務 局：本日は、委員番号 12 番の國廣委員、2 番の大枝委員にお願いしたい。

委 員 一 同：異議なし。

3. ETC2.0 プローブデータ集計・分析の結果について

（１）第 4 回（令和 7 年度第 2 回）策定委員会の振り返り 【資料 1（P2～7）】

委 員 一 同：意見・質問なし。

（２）ETC2.0 プローブデータ集計・分析の報告 【資料 1（P10～17、P18～21）】

会 長：資料 1 P14 は、平日のデータか。

事 務 局：全日（平日＋休日）のデータである。

委 員：資料 1 P10～11（国道 3 号の速度分布）に関して、右左折車と直進車を区分して集計すると、対策案の検討がしやすいと思う。

事 務 局：資料 1 P10～11 は、集計対象区間の全線を直進で通過している車両のみを対象に

集計した結果である。そのため、区間途中で右左折する車両は集計に含まれていない。一方、右左折待機車両の滞留によって直進車が阻害され、結果として速度低下が発生しているという事象は含まれている。

会 長：道路交通上の問題は現段階で把握できており、計画書（案）の内容としては問題ない。今後、具体の整備方法等を決定する際には、右左折車と直進車の区分を含めて分析した上で、検討していただきたい。

委 員：国道３号に関しては、国土交通省においても分析したい。

委 員：速度を分析する際には、交通量も併せて考えていただきたい。同等の交通量であったとしても、沿道環境や信号交差点の箇所数等によって速度状況が異なる。速度低下が交通量に起因するものか、沿道環境等に起因するものかを把握しておく必要があると考える。

会 長：交通量と速度の関係性を整理すると、交通事象をより詳細に把握することができる。

委 員：資料１ P21 をみると北九州市からの来訪が約２割あるものの、P20 では「北九州市方面からの観光の呼び込みが今後の課題」としている。観光スポット２箇所以上の立ち寄りがないため、「周遊してもらいたい」という主旨で良いか。

事 務 局：ご認識のとおり。

会 長：宗像大社と道の駅むなかたのいずれか一方にしか立ち寄っていないというのは少々疑問を感じる。

事 務 局：ETC2.0 の搭載率は 100%ではないものの、今回の集計結果としては P19～20 に示す傾向が確認できたものと考ええる。

委 員：ETC2.0 プローブデータで居住地を確認することは可能か。

事 務 局：居住地は不明であり、あくまでも車両の出発地としての集計結果である。なお、ETC2.0 プローブデータのうち、レンタカー車両の流動分析については、引き続き取り組んでいるところである。

委 員：観光や周遊の視点でみると、通過時刻や滞在時間も併せて分析した方が良い。

委 員：ETC2.0 プローブデータにて前後の立ち寄り状況を把握することは可能か。立ち寄りの実態を踏まえたルート強化が必要だと考える。

資料１ P21 「福岡県内その他：約３割」の内訳は不明だが、宮若市や筑豊地域からの来訪と想定される。そのようであれば、南北軸の強化が必要だという根拠になり得る。

会 長：南北軸という視点では、若宮 IC や鞍手 IC を利用する交通の流動分析も有効となる可能性がある。本計画と直接的な関係性は希薄であるものの、引き続き大学と共同で分析を進めていただきたい。

会 長：ETC2.0 の搭載率はどの程度か。

委 員：全国では、ETC2.0 利用率は約 41%（令和 8 年 4 月現在）である。また、中型車以上では約 80%、普通車以下では約 30%である。

事 務 局：ETC2.0 搭載車が路側機を通過した際に蓄積データが収集される仕組みであるため、生活道路ではさらにサンプル数が少なくなる。

- 会 長：生活道路に関しては、本計画の主題ではないものの、道路整備のあり方や留意点として、考え方や方針を示していくものとなる。
- 事 務 局：生活道路においては、ハード的な整備だけでなく、教育現場や地域コミュニティで情報共有を図る等のソフト的な取組みも効果的であるとする。
- 委 員：資料 1 P23「日の里西小学校・日の里東小学校」校区の潜在的な危険箇所（赤丸箇所）では、点滅信号が設置されているものの、交通規制ルールが遵守されていない状況が見受けられる。今後、さらなる注意喚起が必要な箇所だと感じていた。

4. 第三次宗像市道路網整備計画（案）とパブコメ実施方針について

- 会 長：計画書（案）の内容としては、これまで開催した 4 回の策定委員会で提示及び議論した内容からは、大きく変更点はないという認識である。
- 委 員：国道 3 号は、通過交通を担う路線であるため、市内ネットワークには含めるべきではないと考える。国道 3 号の渋滞区間については、別途、新規路線を整備する方が、市内ネットワークとしては適切でないか。
- 会 長：国道 3 号は広域的な交通を担う路線であるため、市内々の移動は国道 3 号以外で担えるようにするという主旨から、（都）徳重曲線や（都）土穴朝町線の整備をアクションプランに位置付けているものと認識している。
- 委 員：本計画と関連する国・県の計画として、「2040 年、道路の景色が変わる」（国土交通省/令和 2 年 6 月）が位置付けられている。このほか、「WISENET2050・政策集」（国土交通省/令和 5 年 10 月）が公表されているが、これは主に高速道路ネットワークを対象としているため、本計画に関連する計画としては位置付けられていないという認識でよい。
- 事 務 局：ご認識のとおり。

5. 次回の開催予定日等について

- 事 務 局：最終回となる次回（第 6 回）会議の開催は、パブリック・コメント実施後の令和 8 年 9 月頃を予定している。

6. 閉会

以上